



学校に行けない 世界の子どもたち



「学校に行けない」

— 本当にそんなことがあるの？

● はじめに ●

日本では、6歳か7歳になったらみんな小学校に通います。学校に行くことで皆さんは、生活するのに必要な知識や将来の夢をかなえるための基礎を学ぶことができます。つまり学校は、みなさんにとってとても大切なところだといえるでしょう。

ところが今、世界には皆さんと同じ年なのに学校に通えない子どもがたくさんいます。

この小冊子は、児童・生徒の皆さんが先生や保護者の方と一緒に、世界で起きているこの現状について理解を深めていただくために作成したものです。

この小冊子を読んで、同じ地球に暮らす世界のみんなが学校に行けるようになるにはどうしたらいいのか、皆さんもぜひ考えてみてください。

— 先生・保護者の方へ —

日本では、(就学年齢に達した)子どもはすべて小学校へ通うことが当然のことと考えられています。「義務教育」という言葉が示すように、保護者は子どもに普通教育を受けさせる義務があり、すべての子どもは教育を受ける権利を持っています。

ところが、一步日本の外に目を向けてみると、日本で当然と考えられている「就学」が、当然ではない国が数多く存在することに気づきます。「学校に行きたくても行けない。」これが、貧しい国での実情です。

皆さんも、ぜひこの機会に、世界中で起きているこの実情に目を向け、お子さんと一緒に考えてみてください。



「学校に行けない」

— どのくらいの子どもが学校に行けないの？

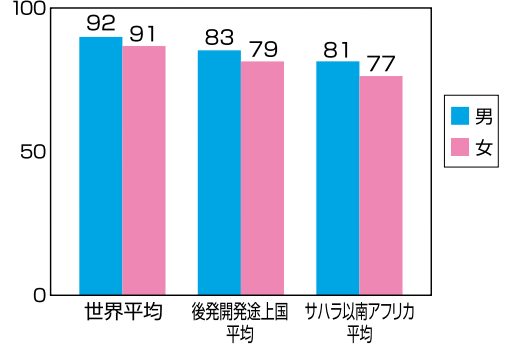
先生・保護者の方へ

現在、世界には、就学年齢に達しているにもかかわらず小学校に通っていない子どもが約6,100万人います^①。そして、その多くは開発途上国と呼ばれる貧しい国に集中しています。日本の子どもの初等教育就学率が男女とも100%であるのに対し、後発開発途上国平均では男子83%、女子78%と、日本と比較してかなり低くなっています^②。「サハラ以南のアフリカ」の就学率においても、男子83%・女子79%と、約5人に1人が就学していないという深刻な状況となっています^③。

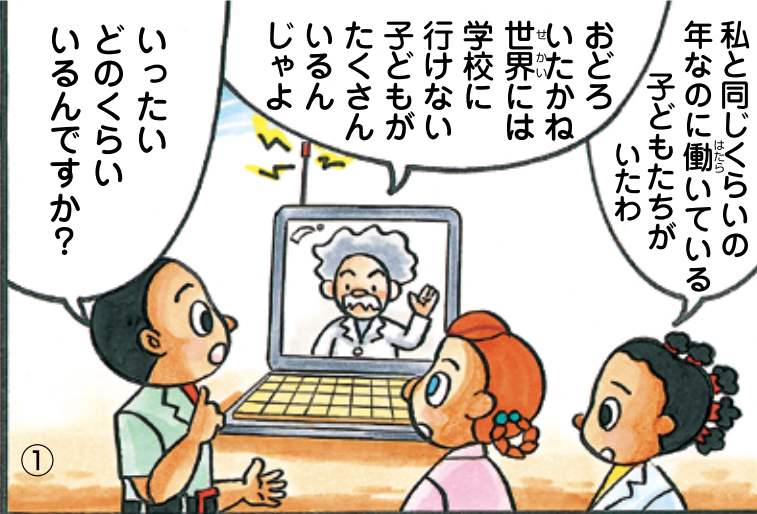
またこういった国々では、小学校に入学できても、卒業まで通い続けることができずにやめてしまう子どもも多くなっています。後発開発途上国、サハラ以南のアフリカでは小学校に入学した子どものうち半分近くが、何らかの理由で最終学年に達するまでに学校をやめてしまっています^④。

① UNESCO (Policy paper 32 / Fact sheet 44 (2017))
② 世界子供白書 (2017)

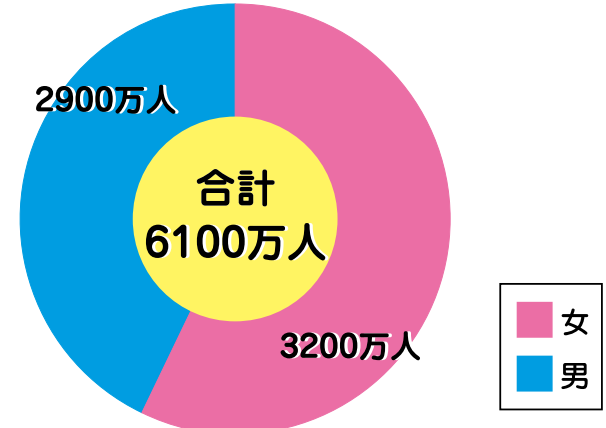
小学校に行くことができる子どもの割合 (%)



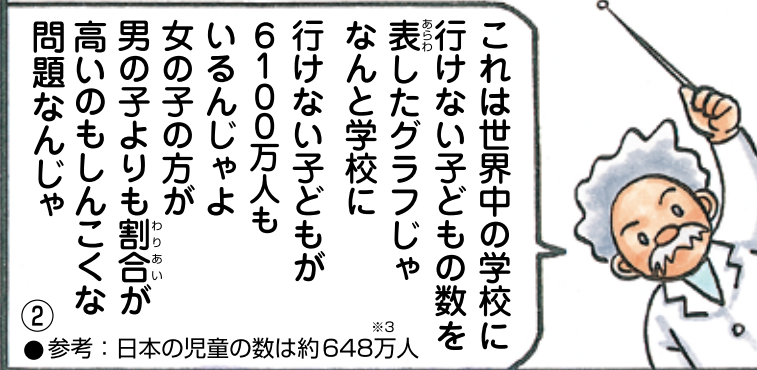
※1 世界子供白書 (2017)



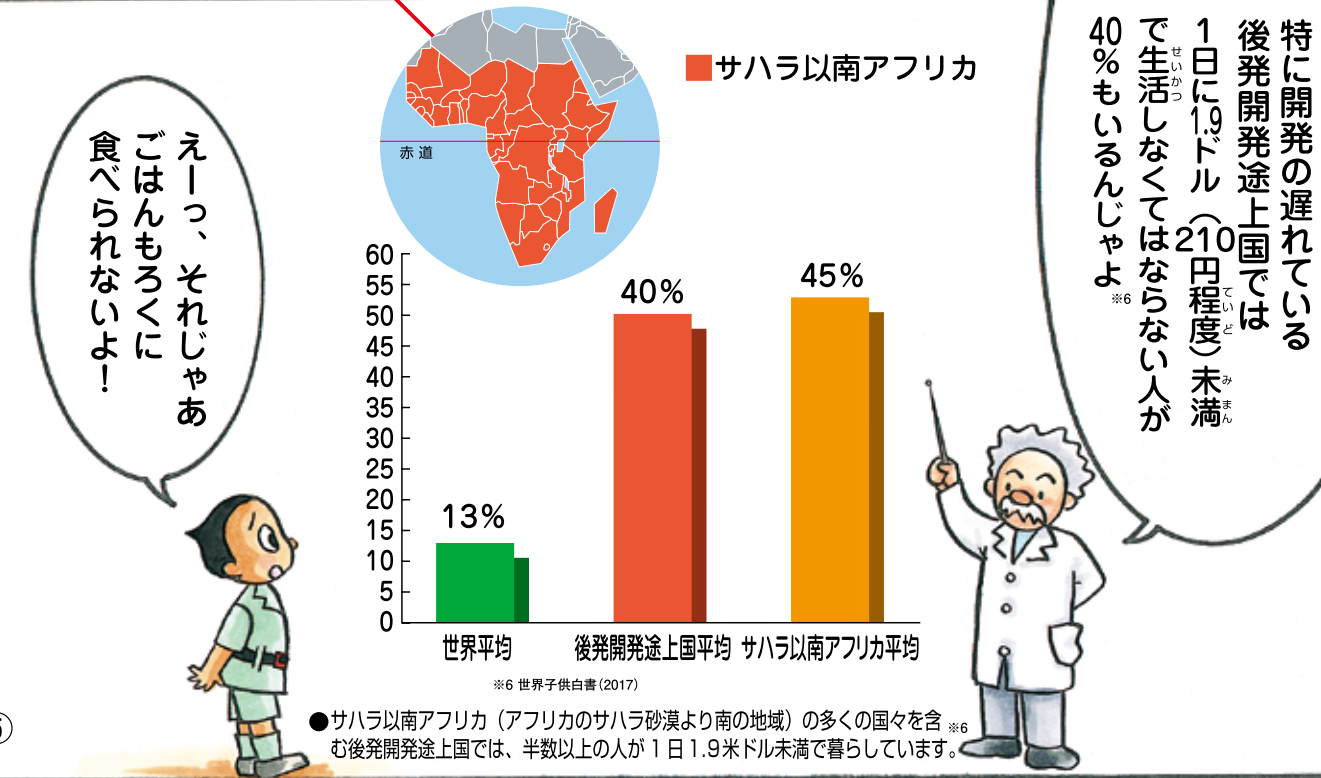
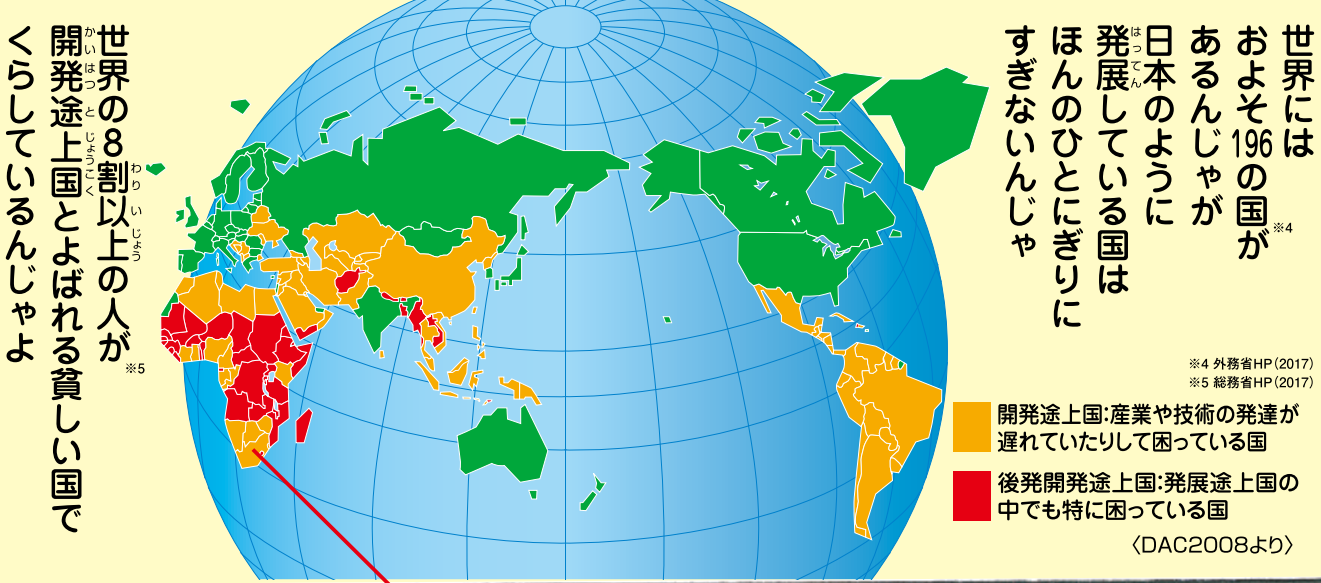
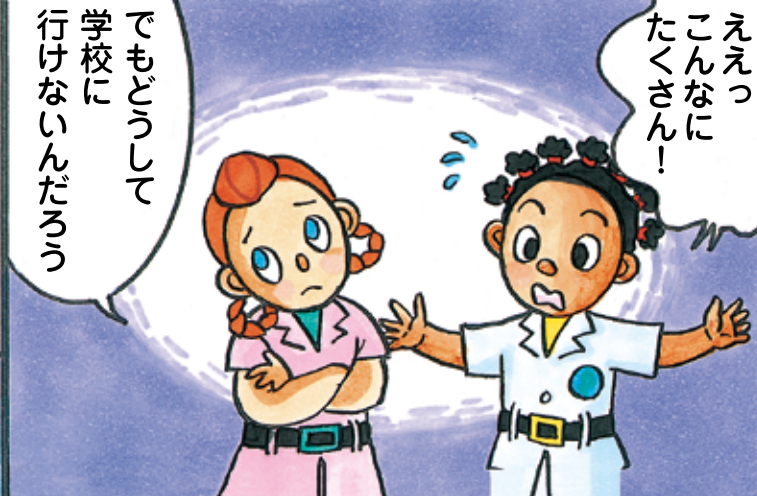
世界の学校に行けない児童の数^{※2}



※2 UNESCO (Policy paper 32 / Fact sheet 44 (2017)) ※3 文部科学統計要覧 (平成29年版)



※3 参考：日本の児童の数は約648万人





学校が近くにない

学校が遠すぎて通えないところがある。また、学校はあっても勉強机や教室が足りないところもある。



先生がいらない

先生を育てる仕組みが整っていないところや、国が貧しくて先生に給料が払えないところもある。



戦争に巻き込まれた

戦争で学校がこわされることや、安心して通えないこと、住んでいる町から逃れねばならないこともある。また、中には少年兵としてかり出されている子どももいる。



両親を失い
めんどろを見てくれる
大人がいらない

病気や何らかの理由で両親を失い、路上で生活しなければならない子どももいる。



両親が行かせて
くれない

子どもを学校に行かせるくらいなら働かせたほうがまだと考えている親もいる。また、女の子には教育は必要ないという考えから、学校に行かせてもらえないこともある。



①

その他にも
さまざまな理由から
学校に行けない
子どもがたくさん
いるんじゃないよ

「学校に行けない」

—どうして学校に行けないの？

先生・保護者の方へ

子どもが学校に行けない理由は国や地域によってもさまざまですが、根本的な原因として、貧困、脆弱な国家、武力紛争などが挙げられます。

子どもの通学を妨げる具体的な要因としては、学費を払う余裕がない、家計を助けるために働かなければならない、弟妹の世話をしなくてはならない、学校が近くにない、教師がいらない、親や地域の住民が教育を軽視する、紛争に巻き込まれた(時には少年兵として)、病気などで両親を失ったなどが挙げられます。

子どもが教育を受ける機会を失う1つの例に児童労働が挙げられますが、その割合は、後発開発途上国平均では男子26%・女子24%となっています。「サハラ以南のアフリカ」にしまると、その割合は男子30%・女子29%にのびります。⁶

⑤ 世界子供白書(2017)



弟や妹の世話をしなくてはならない

5人、10人と兄弟がいて両親のかわりにめんどろをみなくてはならず、学校に行く時間が少ない。

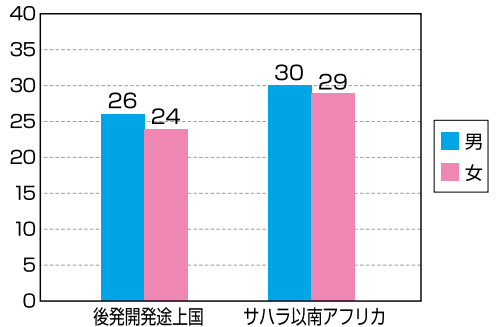
②



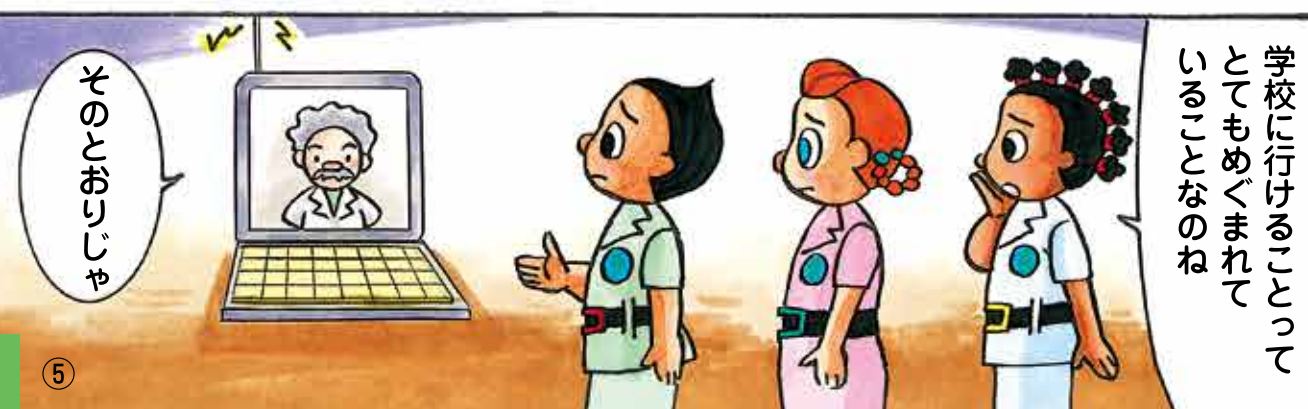
家計を助けなくてはならない

農業などの家の仕事を手伝ったり、外に働きにでなければならない。

児童労働(5~14歳)の割合(%)



※6 世界子供白書 (2017)



そのとおりじゃ

学校に行けることって
とてもめづまれて
いることなのね

「学校に行けない」

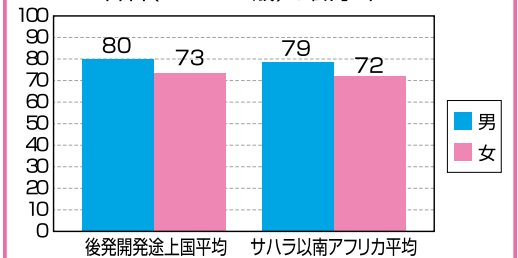
—学校に行けないとどうなるの？
—日本はどんな協力をしているの？

先生・保護者の方へ

小学校等で教育を受ける機会を失った子どもは、読み書き・計算といった基礎的な能力を習得できない可能性があります。そうなると、生活していくうえで最低限必要な知識や技能を得られなかったり、また、将来安定した所得を得る機会をも失い、いつまでも貧困から脱却できない危険性があります。

後発開発途上国平均の若者の識字率は、男子80%・女子73%、中でも「サハラ以南のアフリカ」では、男子79%・女子72%と深刻な状況となっています。^①

若者(15~24歳)の識字率

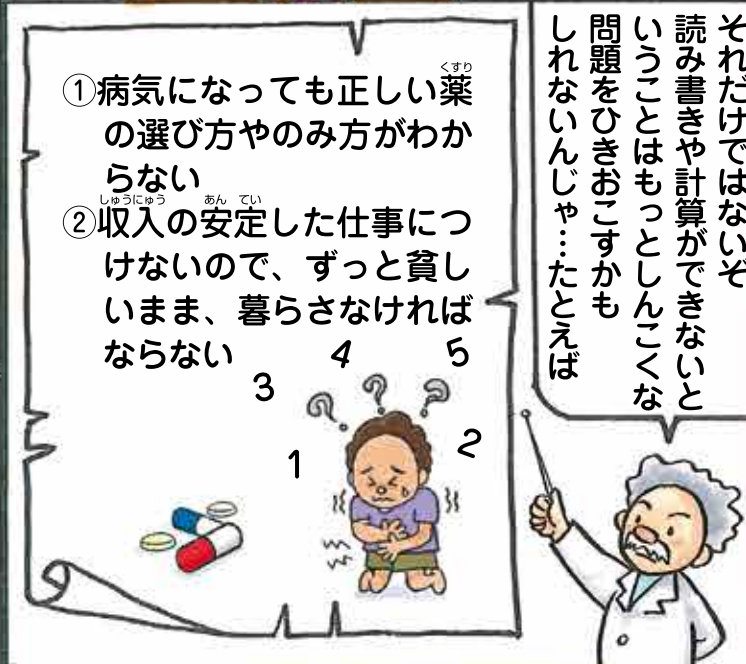


こうした状況を改善するために、国際社会は開発途上国の基礎教育普及に向けたさまざまな取り組みを行っています。日本が行っている取り組みとしては、例えば、すべての人が教育を受けられるように学校を建設したり、すべての人が良い教育を受けられるように教員を養成したり、また、すべての人が将来も良い教育を受けられるように政府の方針や計画を策定したりする場面で協力をしています。

世界のすべての子どもが男女の区別なく質の高い教育を受けられるようになることは、国際社会の共通目標です。そして、そのためにできることは皆さんの身近なところにもきっとあるはずです。世界のみんなが幸せになるためにできること、皆さんもぜひこの機会に考えてみてください。

① 世界子供白書(2017)

学校に行けないとどうなるの？
—学校に行けないとどうなるの？
—日本はどんな協力をしているの？



教育をうけることはすべての人間がもっている当然の権利なんじゃ。だから世界のみんなが学校に行けるように国どうしが協力していろいろな取り組みをしているんじゃ。

たとえば日本はこんな協力をしているんじゃ。

先生を育てる



学校をたてる



教科書や教材を作る



学校へいくことの大切さを両親や地域の人に理解してもらう



国の教育のしくみをととのえる



あなたの近くのJICA国内拠点

●JICA国内拠点

JICAには北海道から沖縄まで、地球ひろばを含めて全国に15ヶ所の国内機関があります。ここでは、教員の方向けの研修、施設訪問の受け入れ、開発途上国からの研修員の受入れの実施や、市民の皆さまからの国際協力に関する質問・要望にお応えしています。



JICA 国内拠点

検索



●国際協力推進員(JICAデスク)

あなたにいちばん近いJICAです。開発途上国で活動した経験を持つ国際協力推進員が、各都道府県にてJICA事業についての出前講座など、教育現場で途上国や国際協力、青年海外協力隊を伝える活動等を行っています。



JICA デスク

検索

「地球ひろば」のご案内

JICAでは開発途上国の暮らしの現状や、地球が抱える問題について学べる3つの“地球ひろば”を開設しています。途上国の現状と地球規模の問題がどのように私たちの生活と結びついているのか、そして国際協力とはどんなものなのかについて、見て・聞いて・触って学べる展示があり、国際協力の現場を経験した「地球案内人」が皆さんの学びをサポートしてくれます。

●JICA地球ひろば

東京都新宿区市谷本村町10-5
(代表)03-3269-2911 (地球案内デスク)0120-76-7278
<https://www.jica.go.jp/hiroba/about/index.html>
・開館時間:平日10:00～20:00、土日祝日10:00～18:00
・休館日:年末年始・毎月第1・第3日曜日



●なごや地球ひろば

愛知県名古屋市中村区平池町4丁目60-7
(代表)052-533-0220
<https://www.jica.go.jp/nagoya-hiroba/>
・開館時間:10:00～18:00
・休館日:月曜日、祝日、年末年始
(カフェ クロスロードは月曜・祝日も営業)



●ほっかいどう地球ひろば

北海道札幌市白石区本通南16丁目南4-25
(代表)011-866-1515
<https://www.jica.go.jp/hokkaido-hiroba/>
・開館時間:平日10:00～17:30
・休館日:土日祝日、年末年始



JICAの国際理解教育／開発教育支援サイト

○WEBページ「先生のお役立ちサイト」

JICA地球ひろばのホームページにて、下記に紹介するプログラムや、授業や家庭学習で活用いただける資料を掲載しています。下記のプログラムや、パンフレットデータ、映像教材の他に、100件を超える国際理解教育の授業実践事例、授業で使える写真や資料を公開しています。また、教員向けの海外研修や、国内での研修会、中高生向けエッセイコンテスト等も紹介しています。



JICA 先生のお役立ち

検索

学校で活用できるJICA開発教育支援プログラム

○国際協力出前講座 ～国際協力の現場の話を聞いてみよう！～

教室や職場に、青年海外協力隊などを講師としてご紹介します。開発途上国での国際協力活動や、その国の文化や暮らしの話の他にも、環境、道徳、スポーツ、キャリア教育など、ご希望のテーマや時間に応じて講座を組み立てることができます。ご関心のある方は、左のページのJICA国内拠点、国際協力推進員までご連絡ください。



国際理解教育／開発教育のための教材

○小冊子「ぼくら地球調査隊」「学校に行きたい！」

環境、感染症、教育、食料問題など、私たちの身近に迫っている地球規模の課題について、イラストや写真、グラフなどから学ぶことができます。



○持続可能な開発目標(SDGs)を学べる教材

印刷して使えるSDGsカードやサイコロ、SDGsを学べる冊子教材、動画等を紹介しています。



○国際理解教育実践資料集(教員向け)

国際社会が取り組むべき地球規模の課題について、イラストや図を使って分かりやすく解説しています。教員用ページには学習のねらいや資料のポイント、学習指導要領との関連などを掲載しています。

○授業や家庭学習で使える10分映像(YouTube,DVD)

「難民」「イスラム」「国際協力」「教育」の四つのテーマについて、それぞれ10分の映像にまとめました。国を逃れた難民の生活や、イスラムの暮らし、日本の国際協力の強み、日本によるアフリカでの教育支援などを知り、考えるきっかけとなる映像です。それぞれのテーマについて学びを深める参考資料も掲載しています。



JICA 10分映像

検索





JICA地球ひろば
(独立行政法人国際協力機構)

〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5 TEL: 03-3269-2911 FAX: 03-3269-2054 URL : <https://www.jica.go.jp/hiroba/>
第一版：2007年3月

2019.3